

たまさきじんじやうらよこあなぐん  
東金市 玉崎神社裏横穴群

東金市田間にある玉崎神社裏横穴群は、玉崎神社の裏山の崖面に多くの横穴墓が掘られていることからその名前がつけられています。この崖面は房総台地が波に洗われてできた海蝕崖（かいしよくがい）で、正面に広大な九十九里平野を望むことができ、古墳時代には多数の横穴墓が造られました。今回の調査は、急傾斜地(崖面)崩壊対策工事に先立ち、6基の横穴墓を調査しています。



〈調査前の様子〉

調査前に樹木を伐採した後の様子です。崖面は東向きで開口部が見られます。土はもろい砂岩質です。



〈2号墓〉

手前の平らな部分が羨道（せんどう）で、奥の一段高くなったところから先が玄室（げんしつ）です。

今回調査している6基のうち4基は、このように玄室が羨道から1m以上高い場所に造られています。

羨道の手前側(入口側)が崩落しています。玄室は天井と壁面の広い範囲が崩落し、一部がかろうじて原形を留めている状況でした。



#### 〈2号墓玄室〉

方形の床面の縁には溝が掘られ、その中から7世紀後半の須恵器長頸壺(ちょうけいこ)と土師器杯(つき)が完形で出土しました。

上奥に見える開口部は3号墓の玄室で、玄室同士が切りあってつながっています。



#### 〈5号墓玄室〉

5号墓は羨道と玄室の段差が50cmと低く、また、玄室の天井部分は屋根の形に掘られ家を模しています。このような家形の玄室は5号墓だけです。

玄室の床面には中央に羨道から続く通路があり、その左右に一段高く長方形の棺座が設けられています。棺座がはっきりわかるのは、今のところ5号墓だけです。